

GIGAスクール構想の現状と課題

令和5年度施策の展開方針

1. 内容

①日常的な活用が進んでいる学校の様子

②活用状況の全国データ

③R4第2次補正予算、R5当初予算（案）

2. 所感

武藤さんが、本日、終始強調していたのは、学びの保証と働き方改革の観点でした。不登校、欠席者、病室からの遠隔参加、特別に支援が必要な子ども達への配慮が、GIGA一人一台端末は非常に有効であること。そして、ある先生の変化ですが、英単語テストを年間6万問を回収・採点・結果のデータ入力・返却と手作業中心にしていた業務が、グループウェアを使う事で圧倒的に効率化された。着実に成果が出ています。数々の変化や効果のでた学校の取り組みをご紹介いただきました。新鮮だった事例ですが、グループウェアの共同編集機能を使う事で、それまで日記が書けなかった子が、他の人のものを参考にして書けるようになったこと。ルールメイキングの授業では、二項対立ではなく、心情バロメーターというもので、どっち寄りかを可視化させ、そこから深い議論に入る実践は、デジタルと先生のひと手間で、絶妙なマリアージュでした。

予算の話では、次の端末リプレイスに向けて、使われ方に差が出ている学校現場の課題解決に大きな予算をつけている話をいただきました。ぜひ使い倒してほしいと。GIGAスクール運営支援センターの機能強化や学びの保証という観点からの県を中心とした広域な事業推進、そこでは、共同調達を視野に入れており、校務のクラウド化、ダッシュボードを活用したデータ利活用といったお話もいただきました。

質疑では、答えにくい内容もありましたが、GIGA一人一台を止めてはならない、そして活用差は、先生の意識改革が大切であること、令和の時代の文房具として使ってもらいたいし、そのために研修も行っていきたい、過度な格差が生まれていたからGIGAをやったんだ、今後も努力をしていきたいという継続への強い想いを受け止めました。GIGA一人一台の活用の普及には、時間が掛かっていますが、着実に成果が生まれており、止まることはありえない、武藤さんのリーダーシップのもとで発展していただくことを感じました。武藤さん、本日はありがとうございました。